

2017 年 11 月 5 日 実行委員長 松永光司

1. 特別報告 12 月 9 日(土)13:00-17:00 (会場:3551 教室)

1. 栗田 禎子 (千葉大学大学院人文科学研究院教授、歴史学・中東研究)
世界史のなかの「いま」を生きる
ー中東・世界・日本のゆくえと「平和憲法革命」の課題ー
2. 浦田 一郎 (一橋大学名誉教授、憲法学)
自衛隊加憲論と政府解釈 ー平和で公正な社会を考えるー

2. 分科会

【1】分科会名:国連平和への権利宣言とわたしたち

設置責任者:前田朗 (東京造形大学)

連絡先:maeda@zokei.ac.jp

設置主旨:2016 年 12 月、国連総会は平和への権利宣言を採択した。賛成 131、反対 34、棄権 19 であるが、主な反対はアメリカ、EU 諸国、日本である。平和への権利宣言を求める国際社会の運動は 2006 年にスペインの NGO によってはじめられ、国連人権理事会で議論が始まった。日本の NGO も早い段階からこれに加わり、国連及び日本国内で平和への権利の普及に努めた。笹本潤・前田朗『平和への権利を世界に』(かもがわ出版)。また、2017 年 7 月、国連総会は核兵器禁止条約を採択した。ここでも日本政府は反対したが、日本の NGO は条約採択に向けて努力を積み重ねた。同宣言と同条約の採択を求めた NGO に研究者及び活動家として参加した報告者が、宣言及び条約の意義や今後の国内での取り組みの課題について論じ、意見交換を行いたい。

12 月 9 日(土) 10:00-12:15	
座長:前田朗	教室番号:3201
10:00-10:10	あいさつ
(1) 10:10-10:45	前田朗(東京造形大学) 平和への権利宣言とは何かー国際 NGO が求めた国連宣言ー
(2) 10:45-11:20	清水雅彦(日本体育大学) 平和への権利宣言と日本国憲法
(3) 11:20-11:55	新倉修(青山学院大学) 核兵器禁止条約と平和への権利宣言ーNGO の平和創造力と課題ー
(4) 11:55-12:15	総合討論

【2】分科会名:リニア中央新幹線問題の検討と運動・経験交流(part2)

設置責任者:長田好弘(JSA リニア研究会)、中野貞彦(同)、橋本良仁(同)

連絡先:s.nakano@d012.dant2.jp

設置主旨:JSA は「リニア中央新幹線計画の撤回・中止を求める声明」発出(2014 年 7 月)以後、大小の研究会・シンポジウムを開催し、あわせて市民運動・学習活動、「ストップ!リニア訴訟」に寄与し、第 48

回定期大会(17年)で「リニア中央新幹線問題研究連絡委員会」の設置を決定し、活動の継続発展を図ることとした。4回を重ねた「ストップ！リニア訴訟」の口頭弁論、多くの地域の市民運動の経験、無謀に強行する建設工事などから、新たに、環境問題、水資源問題、安全問題(工事、生態磁気影響、火災、耐震性、避難方法、等々)、日常生活に与える被害(騒音、振動、微気圧波、景観、等々)が深刻な問題として提起され、計画のずさんさもあらわになっている。本分科会ではこれらの問題解明と経験交流を行う。

12月10日(日) 10:00-12:15	
座長: 橋本良仁、中野貞彦	教室番号: 3156
(1) 10:00-10:20	長田好弘(リニア中央新幹線問題研究連絡委員会) リニア中央新幹線問題研究連絡委員会の設置とその活動報告 ―被告の常識と科学性を備えた責任ある答弁を望む―
(2) 10:20-10:40	山川 元(東京支部) リニア新幹線に対する市民の立場からの三つの疑問
(3) 10:40-11:00	天野捷一(リニア新幹線沿線住民ネットワーク共同代表) リニア新幹線工事の早期中止を求める 地下水対策、建設発生土処分、環境への配慮欠く
11:00-11:05	休憩
(4) 11:05-11:25	中野渡 旬(東京支部、リニア新幹線を考える相模原連絡会事務局) リニア中央新幹線の安全性と相模原での取り組み
(5) 11:25-11:45	中野貞彦(武蔵野通研分会) 磁界の健康影響問題の整理―被告主張の矛盾を突く
(6) 11:45-12:05	関島保雄(弁護士) リニア中央新幹線訴訟の現状と課題
(7) 12:05-12:15	交流・総合討論

【3】分科会名: 原発問題を考える文学サロン

設置責任者: 風見梢太郎(作家 武蔵野通研分会)

連絡先: kazami@big.or.jp

設置主旨: 福島第一原発の過酷事故から六年半がたちますが、汚染水問題ひとつとっても収束からはほど遠い状態です。また、高線量地域の強引な避難指示解除と賠償打ち切り、各地の原発の再稼働など許し難い施策が次々と打ち出されています。この分科会では、ノーベル文学賞を受賞したスベトラナ・アレクシェービッチの『チェルノブイリの祈り』をはじめ、最近書かれた原発に関わる文学作品を元に、原発の廃止に向けて文学に何ができるかを探りたいと思います。前回、前々回と同様に、関心のある方々が自由に交流できるサロン形式にしたいと考えています。

12月9日(土) 10:00-12:15	
座長: 風見梢太郎	教室番号: 3206
10:00-10:10	あいさつ
(1) 10:10-12:15	風見梢太郎(作家・武蔵野通研分会) 原発問題を描いた最近の文学作品

【4】分科会名: 院生・若手小さな冬の学校

設置責任者: 佐藤和宏 (大学問題研究会)

連絡先: Kazuhiro_sato2016@yahoo.co.jp

設置主旨: 本分科会では、院生・若手を中心とした研究交流を行う。近年、分会+院生幹事会+研究会・読書会という3層の取り組みが行われているが、修論報告を除いて研究報告の機会は意外と設けられていない。分科会では、数人の研究報告+議論を行うことで、専門性を軸にしつつも大学や分野を超えた研究交流を行いたい。春の学校や夏の学校ほど大規模でないにしても、このような研究交流の機会を設けることに取り組んでいきたい。

12 月 10 日 (日) 10:00-12:15	
座長: 佐藤和宏	教室番号: 3158
10:00-10:10	あいさつ
(1) 10:10-10:50	土肥有理 (明治大学分会) 歴史認識の「修正」を図る現政権—閣議決定と閣僚発言からの検証—
(2) 10:50-11:30	松尾一郎 (個人会員) レギュラトリーサイエンスを通して科学技術と社会をとらえる
(3) 11:30-12:15	佐川清隆 (東大院生分会) 初音ミクが歌ってきた若者の苦しみ - 生誕 10 周年に寄せて -

【5】分科会名: パリ協定とエネルギー基本計画

設置責任者: 石綿勇 (武蔵野通研分会)、佐川清隆 (東大院生分会)

連絡先: isiwata.isamu@silver.plala.or.jp

設置主旨: 2016 年発効のパリ協定は、21 世紀の後半には人間による温室効果ガス排出量を正味ゼロにするという野心的な道を提示した。ところが米トランプ政権は 6 月パリ協定離脱を表明した。反知性主義の地球環境版とも言える。だが世界では、仏・英が相次いで 2040 年までにエンジン車の新車販売禁止宣言をしたり、2050 年までに再生可能エネルギー 100% を目指す国や自治体が増え、パリ協定実施に向けて動き出している。また脱原発の動きも進んでいる。しかし、日本では原発・石炭火力依存を維持するエネルギー基本計画が再度作られようとしている。こうした、エネルギーを巡る激動の世界と日本のエネルギー転換の道筋を議論したい。

12 月 10 日 (日) 13:00-15:15	
座長: 石綿勇、佐川清隆	教室番号: 3158
13:00-13:05	あいさつ
(1) 13:05-13:35	明日香壽川 (東北大学東北アジア研究センター/環境科学研究科 教授) パリ協定と逆行する日本のエネルギー・温暖化政策: その現状と今後に向けての課題
(2) 13:35-13:55	佐川清隆 (東大院生分会) 再エネ 100% 社会を目指した技術開発動向

(3) 13:55-14:15	歌川学(産総研)、外岡豊(埼玉大学名誉教授) 2050 年に向けた日本の CO₂ 削減対策
(4) 14:15-14:35	石綿勇(武蔵野通研分会) 電力・ガス小売り自由化、パリ協定に逆行する問題点
(5) 14:35-14:55	安達雅樹(運研分会、東京支部幹事、国公研委員会) 船舶における排ガス規制の現状(NO_x, SO_x, CO₂)
(6) 14:55-15:15	総合討論

【6】分科会名:首都圏の防災・減災を考える

設置責任者:中山俊雄(土研分会)

連絡先:otto.nakaya@gmail.com

設置主旨:2011 年東日本大震災による避難民数は、今なお(2017 年 7 月現在)約 9 万人と言われている。2015 年常総水害、2016 年熊本地震災害、2017 年北九州豪雨水害と、日本各地で起きる災害で新たな被災者が増えている。現行の被災者生活再建支援法の対応だけでは、限界にあることが明らかになってきている。一方、首都圏では、想定直下地震による直接被害だけで死者数約 1.8 万人、負傷者 11 万人、要救助者 7.2 万人と推定されている。これらの数値から見ても、被災者全体は膨大な数になり被災者生活再建支援法が機能しないことは明らかである。これまでの災害事例をもとに、首都圏の防災・減災問題を考えたい。

12 月 10 日(日) 15:30-17:45	
座長: 中山俊雄 川合将文	教室番号:3201
15:30-15:40	あいさつ
(1) 15:40-16:10	奥西一夫(京都支部) 災害論の新しい展開－佐藤・奥田・高橋の「災害論」から「At Risk」まで
(2) 16:10-16:40	末延渥史(東京災害対策連絡会世話人) 巨大都市と災害－切迫する首都直下地震・極端現象と災害の予防－
(3) 16:40-17:10	土屋十圀(東京支部) 首都東京の水災害の課題－止まらない温暖化と巨大地震が洪水・津波災害の危険性を増大－
(4) 17:10-17:45	中村八郎(NPO法人くらしの安全安心サポーター) 災害対策と防災関連法制度の基本的課題について －災害対策を発展させるための防災関係法制度の問題指摘－

【7】分科会名:「復興」を考える

設置責任者:吉村さくら(Post3.11 研究会)

連絡先:natsume1905@gmail.com

設置主旨:東日本大震災から 6 年が経ちました。「復興」という言葉によって福島が虚飾され、福島県住

民の帰還が強制的に進められました。しかし帰還率が低くとどまっています。本分科会では、若手・院生の報告を中心に、原発事業に関わる業界や制度の実態、再生可能エネルギーの展望、被災地産食品の安全、被災者の生活保障の実態、3.11 後の安全と安心について取り上げます。もう一度被災地の現状を知り、これからどうやったら本当の「復興」を遂げることができるのかを一緒に考えていきましょう。

12 月 10 日(日) 15:30-17:45	
座長: 吉村さくら	教室番号: 3202
15:30-15:40	あいさつ
(1) 15:40-16:05	吉村さくら(中大院生分会) 被災地における生活保障
(2) 16:05-16:30	寺沢優矢(大学院生) 廃炉会計制度と電気料金転嫁への影響を考える
(3) 16:30-16:55	平野葉子(東京農工大学大学院) 被災地産食品の「安全」について—福島県産食品に対する「風評」問題を中心に—
(4) 16:55-17:20	佐川清隆(東大院生分会) エネルギー転換の最新局面をどう見るか—2017—
(5) 17:20-17:45	外山緑(個人会員) 原発事故後の「安全」と「安心」について

【8】分科会名: 核兵器禁止条約の意義と今後の課題—市民社会の役割に焦点をあてて

設置責任者: 梶原渉(個人会員)

連絡先: kajyan@antiatom.org

設置主旨: 2017 年 7 月 7 日、国連交渉会議で核兵器禁止条約が採択された。最も残虐で非人道的な大量破壊兵器である核兵器が、72 年前に広島と長崎で使用されてからついに包括的に違法化された。禁止条約採択の力となったのは、その条約前文に二度も語句が出てくる「ヒバクシャ」をはじめ、核兵器の非人道性をねばり強く訴えてきた市民社会の運動である。条約ができた現在、条約交渉に参加しなかった核保有国やその同盟国を加入させることが重要である。このためには、これらの国々の市民社会の運動が死活的な役割を果たすべきことは論を待たない。被爆国日本の運動も然りである。本分科会では、「核兵器のない世界」を真に実現する上での課題と展望を探るため、市民社会や、その中での科学者運動の役割について議論を深めたい。

12 月 9 日(土) 10:00-12:15	
座長: 秋山道宏(個人会員/明治学院大学)	教室番号: 3207
10:00-10:10	あいさつ
(1) 10:10-10:55	梶原渉(日本原水協、個人会員) 核兵器禁止条約から核兵器のない世界へ: 課題と展望
(2) 10:55-11:40	亀山統一(JSA 平和問題研究委員会・沖縄支部) 日米同盟下の沖縄における新基地反対運動の到達点—地域の課題から核兵器禁止にもつながる「オール沖縄」—
(3) 11:40-12:15	質疑応答、討論

【9】分科会名：次世代につなぐ平和と女性研究者・技術者

設置責任者：中島明子(J分会)

連絡先：mamanotanuki@yahoo.co.jp

設置主旨：前回の東京科学シンポジウムでは、「戦後 70 年」の年に平和を考える分科会を、女性会員が発案して行いました。そこでは、平和とジェンダーをめぐって、戦争遺跡・音楽・哲学・性的マイノリティ・学生運動の視点からの問題提起がなされました。それから 2 年、貧困、格差、差別、ブラックな働き方、戦争法、共謀罪法、軍事研究の推進など、人々の分断と差別を生む社会的問題と施策の拡大は止むことを知りません。平和な社会を形成するためには、人々の差別・分断を許さず、誰もが人間らしく生きられる共生社会の形成が不可欠です。今年の分科会でも前回に引き続き、学問・研究・教育・生活の場から、共生社会にとっての課題や展望について議論したいと思います。

12 月 10 日(日) 15:30-17:45	
座長：衣川清子、横井夏子	教室番号：3203
15:30-15:40	あいさつ
(1) 15:40-16:00	小林緑(国立音楽大学・名誉教授) 時勢を映す音楽を書いた女性作曲家たち ーポリース・ヴィアルドの“日本にて”(1896)を中心にー
(2) 16:00-16:20	井川眞砂(東北大学名誉教授) アメリカ合衆国における『ハックルベリー・フィンの冒険』論争 ー学校教育現場からの追放問題と学界における再解釈の進展ー
(3) 16:20-16:40	近藤歩(セクシュアルマイノリティと人権を考える会・さらだ 代表) 「L/G/B/T」から「LGBT プーム」ーセクシュアルマイノリティと人権を考える会・さらだの 10 年の活動から振り返る
(4) 16:40-17:00	杉田真衣(首都大学東京) いないことにしない／されないために
(5) 17:00-17:20	堀川祐里(大学院生) 戦時期の女性労働を研究して
(6) 17:20-17:45	コメント

【10】分科会名：科学・技術の現状批判 ー日本の科学・技術の健全な発展のための課題 part-11

設置責任者：長田好弘(武蔵野通研分会)、酒井士朗(同)

連絡先：ssakai@jcom.home.ne.jp

設置主旨：安倍政権は、大地震・火山噴火・豪雨などの大災害、輸送・電力・通信などライフラインの事故多発、コンピュータ技術やインターネットなどを利用したハイテク犯罪への対応はまるでそっちのけで、軍需産業の育成・国家安全保障上の諸課題(特に軍装備の高度化)へ向けて研究者の思想動員に血道をあげている。このような現状の打開のために、私たちは、科学・技術の現状、そのグローバル化・ブラック化、研究者の社会的責任・役割、国民となすべき対話などについて、広く議論、交流する場としたい。

12 月 10 日(日) 13:00-15:45	
座長:長田好弘(武蔵野通研分会)、酒井士朗(同)	教室番号:3160
13:00-13:05	あいさつ
(1) 13:05-13:30	長田好弘(武蔵野通研分会) 「デュアルユース」と軍事研究についてー衛星通信、光通信の初期の研究開発をふりかえってー
(2) 13:30-13:55	海老根弘光(電機・情報ユニオン) 軍事生産現場の実態
(3) 13:55-14:20	酒井士朗(武蔵野通研分会) 人工知能・IOT技術の軍事利用を許さないために
14:20-14:30	休憩
(4) 14:30-14:55	兵藤友博(立命館大学)「日本型研究開発」を考えるー競争力、知識基盤経済、イノベーション、デュアルユース、そして科学・技術政策
(5) 14:55-15:20	横山敏郎(JSA 国公研委員会、東京支部) 地方独立行政法人化などで変遷する地方公設試験研究機関の現状と問題点
(6) 15:20-15:45	小滝豊美(JSA 国公立試験研究機関問題委員会、茨城支部) 国立研究開発法人のいまー研究機関を国民の手に取り戻すために

【11】分科会名:軍学共同への抵抗の現段階とこれからー日本学術会議の新声明を受けてー

設置責任者:多羅尾光徳(東京農工大学)

連絡先:tarao@cc.tuat.ac.jp

設置主旨:軍学共同が人口に膾炙するようになり、この問題が世間の耳目を集めるようになっている。3月には日本学術会議が「軍事的安全保障に関する声明」を発表し、科学者がこの問題について議論を続けていくことが呼びかけられた。本分科会では軍学共同をめぐる議論をふりかえり、今後の取り組みについて意見を交わす。

12 月 10 日(日) 15:30-17:45	
座長:多羅尾光徳	教室番号:3158
15:30-15:40	あいさつ
(1) 15:40-16:20	河村豊(東京工業高等専門学校) 科学技術政策の軍事化ー軍民融合の動きに対抗する「軍民分離の科学技術政策」という考え方についてー
(2) 16:20 -17:00	野村康秀(JSA 科学・技術政策委員会) 予算書からみる防衛省安全保障技術研究推進制度のより危険な変質
(3) 17:00-17:40	亀山統一(JSA 平和問題研究委員会・沖縄支部) 日本学術会議の声明・報告をいかに活かすかー先行事例としての琉球大学における検討過程を例に考えるー

【12】分科会名：「安倍改憲」、その本質・波及追究と改憲阻止運動の課題

設置責任者：金子勝（立正大学分会）、中野貞彦（武蔵野通研分会）

連絡先：s.nakano@d012.dant2.jp

設置主旨：安倍首相は、憲法記念日の5月3日を選んで、2020年に自衛隊を明記する新しい憲法の施行を、と表明。自民党・憲法改正推進本部は、6月6日に会合を開き、「自衛隊の明記」、「教育の無償化」、「緊急事態条項」、「参院選挙区の合区解消」を例示した。8月3日の内閣改造後に、安倍首相は「スケジュールありきではない」と発言したが、憲法改正推進本部の中枢を側近で固める人事を行い、あくまで自民党改憲案を秋の臨時国会に提出する準備をすすめている。第9条へ自衛隊を明記する自民党改憲案の承認が実現すれば、戦争放棄・主権在民・基本的人権を柱とする憲法の体系が壊され、日本の国のあり方が根本的に覆される。「安倍改憲」の本質とその波及を分かりやすく示し、改憲阻止の運動のあり方、その運動の広げ方などを集中的に議論したい。

12月10日（日） 13:00-15:15	
座長：金子勝、中野貞彦	教室番号：3201
13:00-13:10	あいさつ
(1) 13:10-13:40	金子勝（立正大学分会）「自民党改憲」と改憲阻止運動論
(2) 13:40-14:10	中野貞彦（武蔵野通研分会） 幣原喜重郎の“戦争放棄思想”—4つの特徴
14:10-14:20	休憩
(3) 14:20-14:50	湯山薫（自由法曹団女性部事務局長） 今、危機にある憲法24条—安倍政権が求める家族像とは—
(4) 14:50-15:15	総合討論

【13】分科会名：科学・技術サロン —日本の科学・技術の現状とロマンを語る part 10—

設置責任者：長田好弘（武蔵野通研分会）、松永光司（同）

連絡先：matsunaga_mitsushi@hotmail.com

設置主旨：安倍政権は、戦争法（安保法制）のもとで、研究者の思想的取り込みと大学・研究機関の軍事研究への動員を執拗にめざしている。学校教育法等の改悪などで研究・教育現場の状況悪化は著しい。中学教諭の57%が「過労死ライン」との報道もある。「戦争か平和か」の課題を鋭く映し出す時代状況である。敗戦後の知識人の議論をも教訓としつつ、現状におけるJSAの役割について議論を掘り下げたい。さらにはこうした現状をふまえ、科学・技術に関するさまざまな問題を、政治・経済・社会そして研究者の社会的責任等を視野に、自由闊達に議論する場としたい。

12月9日（土） 10:00-12:15	
座長：松永光司	教室番号：3202
10:00-10:10	あいさつ
(1) 10:10-10:40	野村康秀（特許庁分会） 知的財産の状況からみた日本経済のグローバル化を考える

(2) 10:40-11:10	増澤誠一(特許庁分会) 変わる? 知的財産事情 2017
(3) 11:10-11:40	奥村義治(個人会員) 東京の温暖化原因とヒートアイランド対策の検討
(4) 11:40-12:10	長田好弘(東京支部) 再考「これまでわが国の科学者がとりきたった態度について反省し」

【14】分科会名:支部活動の拡大強化・活動活性化のために

～日本科学者会議 50 年の歴史から教訓を求めて～

設置責任者:松永光司(東京支部)、長田好弘(同)

連絡先:matsunaga_mitsushi@hotmail.com

設置主旨:本年発行の『東京支部創立 50 周年記念誌』では、東京支部の多面的な活動について、科学の創造と総合化、会員の要求にもとづく全会員参加の諸活動の追求、創造的な個人会員活動と分会活動の創設・活性化など、これまでの活動の教訓と今後の課題が提起され、真摯な議論が深められた。科学者運動の歴史的教訓と JSA 活動の関係についての認識を深めつつ、これらの議論を一層発展させ、今後の支部活動活性化の基盤をいっそう強固にするため、実践に即して報告と議論を深めたい。

12 月 10 日(日) 15:30-17:45	
座長:松永光司	教室番号:3156
15:30-15:35	あいさつ
(1) 15:35-15:55	長田好弘(東京支部) 東京支部のこれからの活動をどのように展望するか —先達の議論と行動をふり返り学びながら—
(2) 15:55-16:15	多羅尾光徳(東京農工大学分会) 原則的な活動が会員拡大につながる—東京農工大学分会の経験から
(3) 16:15-16:35	米田貢(中央大学分会) 大学分会の活性化のために—中大分会経済班の経験から
16:35-16:45	<休憩>
(4) 16:45-17:05	増澤誠一(特許庁分会) 特許庁分会の活動について—分会活動の教訓を考える—
(5) 17:05-17:25	中野貞彦(武蔵野通研分会) 武蔵野通研分会の活動の根底に何があるか —JSA の会則と原則的運営—
(6) 17:25-17:45	松永光司(東京支部事務局長) 支部活動の歴史的教訓をふまえ、あらたな飛躍をめざす

【15】分科会名:サイバー空間の平和利用のために

設置責任者:長田好弘(武蔵野通研分会)、矢作英夫(同)

連絡先:myahagi@viola.ocn.ne.jp

設置主旨: 特定秘密保護法、通信傍受法、マイナンバー法、共謀罪法など一連の監視と情報統制のための法制度が施行・拡大されている。安倍首相は「防衛計画の大綱」の見直しを表明し、検討項目として弾道ミサイル防衛の強化や宇宙・サイバー空間防衛を挙げた。その後の「2プラス2」共同発表でも、安保法制整備を踏まえ、日本の役割を拡大して防衛力を強化する方針を明記した。国民生活におけるネット犯罪やウィルス被害など軽減・除去のための新技術開発と法整備等の改善が喫緊の課題である。同様に、サイバー空間の「戦場化」を許さない議論と運動がさしせまって重大となっている。本分科会の報告と議論をその一助となるように力を合わせよう。

12 月 9 日 (日) 10:00-12:15	
座長: 長田好弘	教室番号: 3203
10:00-10:10	あいさつ
(1) 10:10-10:50	長田好弘(サイバーセキュリティ問題勉強会) サイバセーキュリティ問題勉強会一立ち上げの意義と当面の課題一
(2) 10:50-11:30	矢作英夫(武蔵野通研分会) 急増する I o T のセキュリティ問題を考える
(3) 11:30-12:15	今枝暁子(個人会員) セキュリティ技術者の現状と問題点

【16】分科会名: IT技術と教育・労働・社会生活 part 5

設置責任者: 酒井士朗(武蔵野通研分会)、矢作英夫(同)

連絡先: ssakai@jcom.home.ne.jp

設置主旨: 政府はビッグデータや IOT、AI などの活用による経済の効率化を成長戦略の柱と位置づけ推進している。IT 化による利便性と効率化が強調されるなか、生産と流通の場で広がる労働強化と事故の多発、マイナンバーなど個人情報の流出や監視カメラ・政府機関によるネット監視などへの不安、多発するネット犯罪、プライバシー侵害、歩きスマホでの事故や子どもとインターネットをめぐる問題などが顕在化している。本分科会は、各分野での IT 化の現状を批判的に検討、要求と実現の闘いの経験などを交流し、国民のための IT 技術の発達とその導入のあり方を考える連帯の場としたい。

12 月 10 日 (日) 10:00-12:15	
座長: 矢作英夫(武蔵野通研分会)	教室番号: 3201
10:00-10:05	あいさつ
(1) 10:05-10:30	長谷川元彦(第一経理 埼玉事務所長 税理士) 個人番号制度(マイナンバー)の現状と問題点
(2) 10:30-10:55	橋本しげき(日本共産党武蔵野市議会議員) マイナンバー利用の現状と問題点 ー武蔵野市の場合
(3) 10:55-11:20	酒井士朗(武蔵野通研分会) マイナンバーとビッグデータ 政府の成長戦略を問う
11:20-11:30	休憩
(4) 11:30-12:00	総合討論

【17】分科会名：暴走する安倍教育行政ストップ、憲法を基本にした教育再生を！

設置責任者：川田奈々絵（個人会員）、小嶋茂稔（東京学芸大学分会）

連絡先：kakoji@jcom.home.ne.jp

設置主旨：安倍政権は 2006 年、1947 年の教育基本法を改悪し、2013 年戦後教育体制を解体する「教育再生実行会議」を発足させた。2015 年の戦争法による「戦争する国」づくりと表裏一体で、道徳教育の教科化、教育勅語使用についての閣議決定、歴史認識をゆがめる教科書検定、などなど、矢継ぎ早に教育行政「改革」をすすめている。憲法を生かし、子供たちが「市民として成長し、発達し、自己の人格を完成するための」教育を実践し、努力している多くの教職員がいる。安倍教育行政暴走をストップさせるために、論議と交流をすすめたい。

12 月 10 日（日） 13:00-15:15	
座長：小嶋茂稔、川田奈々絵	教室番号：3202
13:00-13:10	あいさつ
(1) 13:10-14:10	佐貫浩（法政大学名誉教授） 安倍教育改革 vs 憲法原理に立つ教育再生－新自由主義教育改革の手法と本質にどう立ち向かうか－
(2) 14:15-14:45	宮根一彦（東京都港区立港南中学校）、津田幸介（東京都立高等学校）、小嶋茂稔（東京学芸大） 教育現場の現状と課題－中学校・高等学校・教員養成の現場から－
(3) 14:45-15:15	討論

【18】分科会名：築地市場の豊洲移転 築地市場存続の意義と豊洲市場移転のデメリット

設置責任者：石渡真理子（ミズ分会）

連絡先：i-mariko@jcom.home.ne.jp

設置主旨：築地市場の豊洲移転中止をめざして、その根拠を多角的に明らかにする

- 1) 豊洲市場の実態（汚染の実態、作業環境の問題など）
- 2) 豊洲移転策への多角的批判（豊洲移転がすすめられた背景、小池知事の移転策の問題点、など）
- 3) 国民の食の安全・安心を守る市場とは

12 月 10 日（日） 13:00-15:15	
座長：検討中	教室番号：3203
13:00-13:05	開会あいさつ コーディネーター 石渡真理子
(1) 13:05-13:25	坂巻幸雄（元通産省地質調査所（現・産業技術総合研究所）主任研究官） 豊洲の土壌汚染は解明されたのかーイタイイタイ病発生源調査の教訓と対比してー
(2) 13:25-13:45	本間慎（東京農工大学名誉教授）

	豊洲市場移転問題—専門家会議の非科学性—
(3) 13:45-14:05	石渡眞理子(元東京大学大学院工学系研究科教員) 東京ガス豊洲工場はどんなところだったのか —聞き取り調査と公表資料を中心とした汚染源へのアプローチ
14:05-14:10	休憩
(4) 14:10-14:30	池上幸江(大妻女子大学名誉教授) 豊洲移転は私たちの食生活に何をもたらすか？
(5) 14:30-14:50	曾根はじめ(東京都議会議員) 築地市場の豊洲移転か現地再整備か—この間解明された豊洲新市場の問題点と築地現地再整備の可能性—
(6) 14:50-15:15	質疑応答、討論

【19】分科会名：国民生活向上の経済運営はいかにあるべきか

設置責任者：米田貢(中央大学分会)

連絡先：myoneda@tamacc.chuo-u.ac.jp

設置主旨：新自由主義的経済運営の完成版というべきアベノミクスが実施されて4年半余り、大企業が最高益をあげごく一部の富裕層が株高を歓迎する一方で、大多数の勤労国民の生活は崩壊の瀬戸際にある。憲法九条の明文改憲を意図する安倍内閣に対して、多くの国民は九条に象徴される平和主義と立憲主義を守り発展させる固い意志を示している。これと比較して、労働者に犠牲を強いる(実質賃金の明確な切下げ)アベノミクス、ひいては小泉構造改革以来の自民党などによる新自由主義的経済運営に対する勤労国民の包囲網はまだ十分に構築されていない。経済運営の基本目標を大企業の利益拡大から国民生活の向上に根本的に転換するとはどういうことなのか、それはいかにして達成しうるのかを、経済理論と労働と生活擁護の実践の双方の視点から再検討する。すべての勤労市民が8時間の労働で健康で文化的な「人間らしい」生活がおくれる日本社会の実現を考える。

12月10日(日) 10:00-12:15	
座長：米田貢(中央大学分会)	教室番号：3202
10:00-10:05	設置主旨 米田貢
(1) 10:05-10:30	野村康秀(JSA 科学・技術政策委員会) 国の「未来戦略」の柱に位置付けられた科学技術政策の歪みを検証する
(2) 10:30-10:55	藤田実(桜美林大学) 日本経済の蓄積基盤の変容と日本的労使関係
(3) 10:55-11:20	米田貢(中央大学) 国民生活向上のために財政・金融はいかに運営されるべきか
(4) 11:20-12:15	討論

【20】分科会名：非正規雇用問題を考える

設置責任者：衣川清子（個人会員）

連絡先：kinu_k716@yahoo.co.jp

設置主旨：日本の労働者全体に占める非正規雇用労働者の割合は 1984 年の 15.3%から 2016 年には 37.5%へと激増し（厚生労働省試算）、非正規雇用の不安定性、低賃金、劣悪条件はいまや社会問題となっている。そうした状況の中で雇用安定のために改正された労働契約法が、趣旨と逆行する無期契約転換直前の雇止めを発生させて大問題となった。現状の改善のために何をどうすべきなのか、諸分野からの報告に基づいて考えたい。

12 月 10 日（日） 10:00-12:15	
座長：衣川清子	教室番号：3203
10:00-10:10	あいさつ
(1) 10:10-10:35	衣川清子（個人会員・法政大学等非常勤講師） 非正規雇用はなぜここまで広がってきたのか
(2) 10:35-11:00	渡辺照子（個人会員・派遣労働者） 事務職女性派遣労働者の実態と問題点－2015 年施行の「改正」派遣法の影響はどうか
(3) 11:00-11:25	松村比奈子（拓殖大学他非常勤講師・首都圏大学非常勤講師組合委員長）非常勤講師組合から見た、日本の民主主義と高等教育
(4) 11:25-11:50	佐々木弾（東京大学社会科学研究所・東京大学教職員組合執行委員長）誰も得しない「非正規化」「雇止め」なぜ廃れないのか？
(5) 11:50-12:15	討論

【21】分科会名：暴走する大学「改革」の諸問題

設置責任者：横田力、新井田智幸

連絡先：tniida1981@gmail.com

設置主旨：現在、日本の大学では、政府・文科省主導の、あるいは文科省を付度しての大学「改革」の嵐が吹き荒れている。大学予算全体を減らしながら、競争的資金の分配をエサにして、大学間の「改革」競争が煽られるなかで、トップダウン型の組織改革によって強権的になった学長や理事会が、現場の教職員の意見も聞かずに「改革」を推し進めるという事例が頻出している。これは大学の自治を破壊し、教職員の労働条件や学生の教育環境に重大な悪影響を及ぼすものである。この暴走の実態を共有すると同時に、どのように対抗していけばいいのかを考えていきたい。

12 月 10 日（日） 15:30-17:45	
座長：横田力	教室番号：3207
15:30-15:40	あいさつ
(1) 15:40-16:05	横田力（都留文科大学）今日の大学「改革」の歴史と現状－「上からの

	大学改革」は何を目指すのかー
(2) 16:05-16:30	松村比奈子(拓殖大学他非常勤講師・首都圏大学非常勤講師組合委員長) どこまでいっても「パフォーマンス大学改革」の日本
(3) 16:30-16:55	中藤洋子(東京支部) 学長への権限の集中と「大学」の変質 ー 一地方公立大学の法人化後の実態から
(4) 16:55-17:20	柴田和宏(岐阜支部) 地方国立大学におけるトップダウン「改革」の実情
(5) 17:20-17:45	全体討論

【22】分科会名:若手活動の取り組みから見る支部活動—JSA 内外の交流をいっそうの活性化へ—

設置責任者: 吉沢壮二郎(明治大学院生分会)、佐藤和宏(東大院生分会)

連絡先: yosizawa0318@yahoo.co.jp、kazuhiro_sato2016@yahoo.co.jp

設置主旨: 本分科会では、院生・若手を中心の報告者とした活動交流を行う。近年、院生・若手会員を中心に、分会+院生幹事会+研究会・読書会という3層の取り組みが行われているが、JSA 内外とのいっそうの交流が求められているように思われる。分科会では、JSA 内部/外部から複数の活動報告を行うことで、JSA 内部における世代間や諸活動間での交流を行いたい。またこれは、JSA 外部の諸運動からも学ぶ機会を持つことで、支部活動のいっそうの拡大に資するものとした。

12 月 10 日(日) 午前 13:00-15:15	
座長: 佐藤和宏	教室番号: 3156
13:00-13:05	あいさつ
(1) 13:05-13:25	院生幹事会
(2) 13:25-13:45	土肥有理(明治大学分会) 大学問題研究会の活動と私たちを取り巻く情勢
(3) 13:45-14:05	山沢智樹(首都大院生分会) 「都政と東京を考える会」の立ち上げ——主権者、生活者、科学者として東京都政を考える意味と意義
(4) 14:05-14:25	ディスカッション①(会場発言+質疑応答)/5 分休憩
(5) 14:25-14:40	鈴木正孝(非常勤講師) 近年の労働運動の動向ー首都圏青年ユニオンとエキタスの取り組みからー
(6) 14:40-14:55	広瀬亜紀(個人会員) ブラック職場における過労死寸前の働き方と労働組合の役割
(7) 14:55-15:15	ディスカッション②(会場発言+質疑応答+まとめ)

【23】トランプ政権とアメリカ社会

設置責任者:増田正人(法政大学)

連絡先:mmasuda@hosei.ac.jp

設置主旨:アメリカの社会は、今、大きな歴史的な岐路に立っている。昨年の大統領選挙で誕生したトランプ大統領は、アメリカ社会における富と地域の格差、社会の分裂が拡大する中で、一部の強固な支持者を重視しながら、当初の公約に掲げた政策運営を行おうとしている。しかし、他方で、政権当初からの高い政権不支持率に加えて、整合性の取れない諸公約や白人中心主義的な姿勢やそれをめぐる政権内の軋轢、相次ぐ高官の辞任など、トランプ政権の運営は、アメリカの社会の混乱を助長させながら行き詰まりを見せ始めている。本分科会では、アメリカ経済、社会の研究者の報告をもとに、トランプ政権を誕生させたアメリカ社会の現状を分析しつつ、今後のトランプ政権の行方等についての議論をしていきたい。分科会では、何か一つのまとめを出すということではなく、多くの方の参加のもとで討論を行って、様々な角度からのアメリカの現状を明らかにしていきたいと考えている。

12 月 10 日(日) 13:00-15:15	
座長:増田正人	教室番号:3207
13:00-13:10	あいさつ
(1) 13:10-13:50	本田浩邦(獨協大学・個人会員) 長期停滞の歴史的教訓—2つの大不況との比較
(2) 13:50-14:30	増田正人(法政大学) アメリカ政治制度の特徴と反ワシントン感情—トランプを支えるイデオロギー—
(3) 14:30-15:15	平野健(中央大学) 21世紀初頭のアメリカ経済の歴史的 position—資本蓄積と経済成長の長期トレンドと中期サイクル

3. ポスターセッションの募集 (会場: 3153 教室)

- 統括設置責任者:日本科学者会議東京支部事務局
- 設置主旨:東京支部の分会、個人会員・若手院生、女性研究者等の活動概要を広く会内外に紹介する。また関東甲信越地区各支部にも呼びかけ、可能な範囲で活動の促進と親睦を図る。

〈展示予定ポスター〉

- (1) 武蔵野通研分会:武蔵野通研分会の50年の歩み
- (2) 運研分会:分会紹介
- (3) 特許庁分会:特許庁分会の活動
- (4) 個人会員:個人会員活動の昨日、今日、明日
- (5) 『日本の科学者』編集委員会:『日本の科学者』普及・販売促進のために
- (6) はづきの会:東京支部女性会員の会「はづきの会」の活動内容紹介

〈引き続き、募集中〉

- 申込:11月30日(木)までにポスター設置希望の旨を実行委員会までお知らせください。すでに申し込まれた方は、改めての申込は不用です。
- 設置:基本的に一申込につきA0サイズで1枚分です。追加が必要な場合は事前にご連絡ください。各自でポスターの印刷、設置、撤去をお願いします。
- ポスター紹介:ポスターは2日間展示しますが、12月10日(日)の12:30~12:50にポスターの紹介時間を取ります。ポスター展示室は休憩室を兼ねており、そこで各ポスター3分程度の紹介をお願いしたいと思います。
- 申込および質問は、19th-kagaku@jsa-tokyo.jp(実行委員会)まで。

4. 展示（シンポジウム期間中開催）

【1】平和を目指す日中歴史認識のための展示－731部隊展（会場：3204教室）

設置責任者:長沼仁(撫順の奇蹟を受け継ぐ会東京支部)

設置主旨:現在の中高生や大学生は、「戦争」についてどのようなイメージをもっているのでしょうか?戦争はテロと報復が関連付けられる?領土やミサイル問題と関連するのが戦争・・・?アウシュビッツの人体実験・戦争犯罪は、アジアにも実在した?しかし、アウシュビッツがヨーロッパで「負の遺産」として継承されている一方で、「731部隊」はどのくらい顧みられてきたのでしょうか。戦争の実態を風化させることなく、平和構築の礎を継承できるように史実を伝えるため、とりわけ、戦争の裏側として解明され難かった《秘密戦》にスポットを当てて、戦争の裏側から実態を伝えるのが「731部隊展」です。

【2】日本・キューバ友好の展示とイベントーキューバに関する知見や文化を紹介!多面的に、キューバを体験してください!（会場：3154教室）

設置責任者:増澤誠一(特許庁分会)

設置主旨:米国と国交回復して注目されているキューバについて、日本・キューバ友好運動の観点からの展示とイベントを行う。内容は、キューバ革命58年の歴史年表、キューバの歴史を解説した壁新聞、日本とキューバとの友好運動の写真の展示、12/9(土)午後 キューバに関する映画の上映。12/10(日)昼休み、午後 キューバ音楽のミニライブ、併せて『日本の科学者』「特集 変わりゆくキューバ」10月号の即売、キューバのラム酒の試飲。

【3】日本と朝鮮半島の友好のための展示－「1923年関東大震災朝鮮人虐殺に関するパネル」展示（会場：3205教室）

設置責任者:赤石英夫(日朝協会東京都連合会)

設置主旨: 関東大震災の時、「朝鮮人が井戸に毒を入れた」「暴動を起こして襲ってくる」などの流言飛語が流され、軍隊・警察そして流言飛語にだまされた市民による自警団によって多くの朝鮮人が被害さ

れました。虐殺は、東京をはじめ関東各地で行われました。当時の様子を収めた写真・絵画や資料を展示します。このような歴史を繰り返さないための学習の場にしていただけたらと思います。私たちは毎年 9 月 1 日に「関東大震災朝鮮人犠牲者追悼式」を行い、犠牲者を追悼し、朝鮮半島をはじめアジア諸国との友好親善を深める決意を固めています。この追悼式には「朝鮮犠牲者追悼碑」建立の 1974 年以降都知事が「追悼の辞」を寄せてきました。しかし今年は小池都知事が「追悼の辞」を取りやめ、大問題になりました。この問題についても、都民・各界の個人・団体からの批判と抗議・新聞報道など資料を展示する予定です。

5. プレ企画イベント

11 月 3 日（金、休日）、「東京科学シンポジウム記念囲碁大会」がプレ企画として開催され、会内外から 15 人が参加しました。1 人 4 対局のリーグ戦による熱いたたかいと、並行して、日本棋院・穂坂繭三段の指導碁もあり、盤をはさんだ親睦と交流が深まりました。

6. 開催日程（会場の都合で一部変更となる場合があります）・参加費

12 月 9 日（土）	09:30～10:00	受付
	10:00～12:15	分科会 1
	13:00～17:00	特別報告
	17:30～	懇親会
12 月 10 日（日）	10:00～12:15	分科会 2
	13:00～15:15	分科会 3
	15:30～17:45	分科会 4

	参加費	懇親会費
一般	2,000 円	3,000 円
院生・学生	1,000 円	1,000 円

※会員・非会員の区別はありません

※参加費には予稿集代を含みます

7. シンポジウム会場&懇親会

会場:中央大学・多摩キャンパス(東京都八王子市東中野 742-1) 3 号館(受付:1 階 3151 教室付近)

懇親会:12 月 9 日(土)17 時 30 分～ 中央大学・多摩キャンパス 生協ヒルトップ(4 階、北側)



主要駅からのアクセス

- 多摩モノレール「中央大学・明星大学駅」から徒歩 1 分
- 京王線「多摩動物公園駅」から徒歩 10 分
- 小田急・京王線「多摩センター駅」下車、バス(13 番バス停)で 12 分
- JR「豊田駅」下車、バス(4 番バス停)15 分



☆ご案内

12 月 10 日(日)(シンポジウム 2 日目)は、食堂が休日です。

会場近辺には食堂がないため、ご希望の方には実費でお弁当の希望を承ります。

ご希望の方は、同封の振込用紙にご記入いただき、11 月末までに参加費の振込とともにお申し込みください。お弁当代は、当日、お弁当と引き換えにいただきます。

☆お知らせ

シンポジウムのチラシができあがりしましたので、宣伝・配布にご活用ください。必要部数と送付先を実行委員会までお知らせください。

第 19 回東京科学シンポジウム実行委員会

石渡真理子(支部代表幹事)、長田好弘(支部代表幹事)、葛西洋平(支部常任幹事)、衣川清子(支部常任幹事)、佐川清隆(支部事務局次長)、佐藤和宏(支部常任幹事)、土肥有理(支部常任幹事)、中島明子(支部幹事)、中野貞彦(支部常任幹事)、新井田智幸(支部幹事)、○真嶋麻子(支部事務局次長)、松尾一郎(支部常任幹事)、◎松永光司(支部事務局長)、吉沢壮二郎(支部幹事)

◎：実行委員長、○：実行委員会事務局長

日本科学者会議東京支部 第 19 回東京科学シンポジウム実行委員会

〒113-0034 東京都文京区湯島 1-9-15 茶州ビル 9 階

Tel/Fax : 03-3811-8281 e-mail : 19th-kagaku@jsa-tokyo.jp

第19回東京科学シンポジウム 分科会等の日程と会場									
会場は全て3号館				発表 件数	12月9日(土)		12月10日(日)		
					午前	午後	午前	午後	午後
					10:00～ 12:15	13:00～ 17:00	10:00～ 12:15	13:00～ 15:15	15:30～ 17:45
特別報告				2		3551			
分 科 会	1	国連平和の権利宣言とわたしたち	3	3201					
	2	リニア中央新幹線問題の検討と運動・経験交流 (part2)	6			3156			
	3	原発問題を考える文学サロン	1	3206					
	4	院生・若手小さな冬の学校	3			3158			
	5	パリ協定とエネルギー基本計画	5				3158		
	6	首都圏の防災・減災を考える	4						3201
	7	「復興」を考える	5						3202
	8	核兵器禁止条約の意義と今後の課題—市民社会の役割に焦点をあてて	2	3207					
	9	次世代につなぐ平和と女性研究者・技術者 Part2	5						3203
	10	科学・技術の現状批判 ー日本の科学・技術の健全な発展のための課題 part-11	6				3160		3160
	11	軍学共同への抵抗の現段階とこれからー日本学術会議の新声明を受けてー	3						3158
	12	「安倍改憲」、その本質・波及追究と改憲阻止運動の課題	3				3201		
	13	科学・技術サロン ー日本の科学・技術の現状とロマンを語る part 10 ー	4	3202					
	14	支部活動の拡大強化・活動活性化のために	6						3156
	15	サイバー空間の平和利用のために	3	3203					
	16	IT技術と教育・労働・社会生活 part 5	3			3201			
	17	暴走する安倍教育行政ストップ、憲法を基本にした教育再生を！	2				3202		
	18	築地市場の豊洲移転 築地市場存続の意義と豊洲市場移転のデメリット	5				3203		
	19	国民生活向上の経済運営はいかにあるべきか	3			3202			
	20	非正規雇用問題を考える	4			3203			
	21	暴走する大学「改革」の諸問題	4						3207
	22	若手活動の取り組みから見る支部活動ーJSA内外の交流をいっそうの活性化へー	5				3156		
	23	トランプ政権とアメリカ社会	3				3207		
展 示	1	日中友好と歴史認識のための展示		3204					
	2	日本・キューバ友好の展示とイベントーキューバに関する知見や文化を紹介！多面的にキューバを体験してください！		3154					
	3	日本と朝鮮半島の友好のための展示		3205					
	4	ポスターセッション・休憩スペース		3153（10日12:30-12:50ポスター発表会）					
実行委員会				3151					
合計			91						
懇親会：9日17:30～ 生協ヒルトップ4F北側									